

「経営情報イノベーション研究」巻頭言

経営情報イノベーション研究科長

金 川 幸 司

このたび、『経営情報イノベーション』の第5号を発刊することができました。

当経営情報イノベーション研究科も6年目を迎え、博士課程の修了生も既に相当数を送り出すことができました。この『経営情報イノベーション』は、大学院生に投稿を認めており、その論考を世に出す機会を提供しています。

今夏は、リオデジャネイロオリンピックが開催され、日本選手のメダルラッシュにわいた大会でもありました。それぞれの特徴を見ると、単身で海外に渡って研鑽を積み、最先端の技術を磨いたり、海外に活動拠点をもち、大きな大会で場慣れをした選手が多かったように思います。また、先のロンドンオリンピックで惜敗した柔道なども、世界各地の格闘技を研究し、どのような技をかけられても対応できる対策を取ったと言います。

企業活動や公共政策も外の良いものを取り入れ日本の文脈に合わせてカスタマイズすることが必要です。我々研究者は、海外の進んだ技術やノウハウ、政策をそれらの背後にある文脈も含めて解釈し、紹介することが求められていると言えるでしょう。

今後、本紀要もそういった社会の要求に応えるべく、さらに多くの研究成果の発表を期待したいと思います。